

三菱重工 防衛事業を増員へ

国予算拡大方針受け 2〜3割

三菱重工は22日、政府の防衛予算の拡大方針を受けて、2024〜26年度の防衛事業の年間売上高が1兆円規模に増え、今の倍の水準になる見通しを示した。事業規模の急拡大に対応するため、人員を2〜3割増やす意向も明らかにした。

三菱重工は、ミサイルや戦闘機などの防衛装備品の製造を手がけている。防衛事業の売上高は過去20年間、年間5千億円規模

で推移してきたが、予算増を受けて受注が増えている。

防衛事業の人員増は、配置転換や採用の強化などを通じて行う。現在の防衛事業の社員数は、6千〜7千人程度。すでに、今年開発を断念したジェット旅客機「スペースジェット」に関わっていた人員を射程の長い「スタンド・オフ・ミサイル」や次期戦闘機などの事業に再配置しているが、今後、さらに増や

す方針だという。

(杉山 歩)